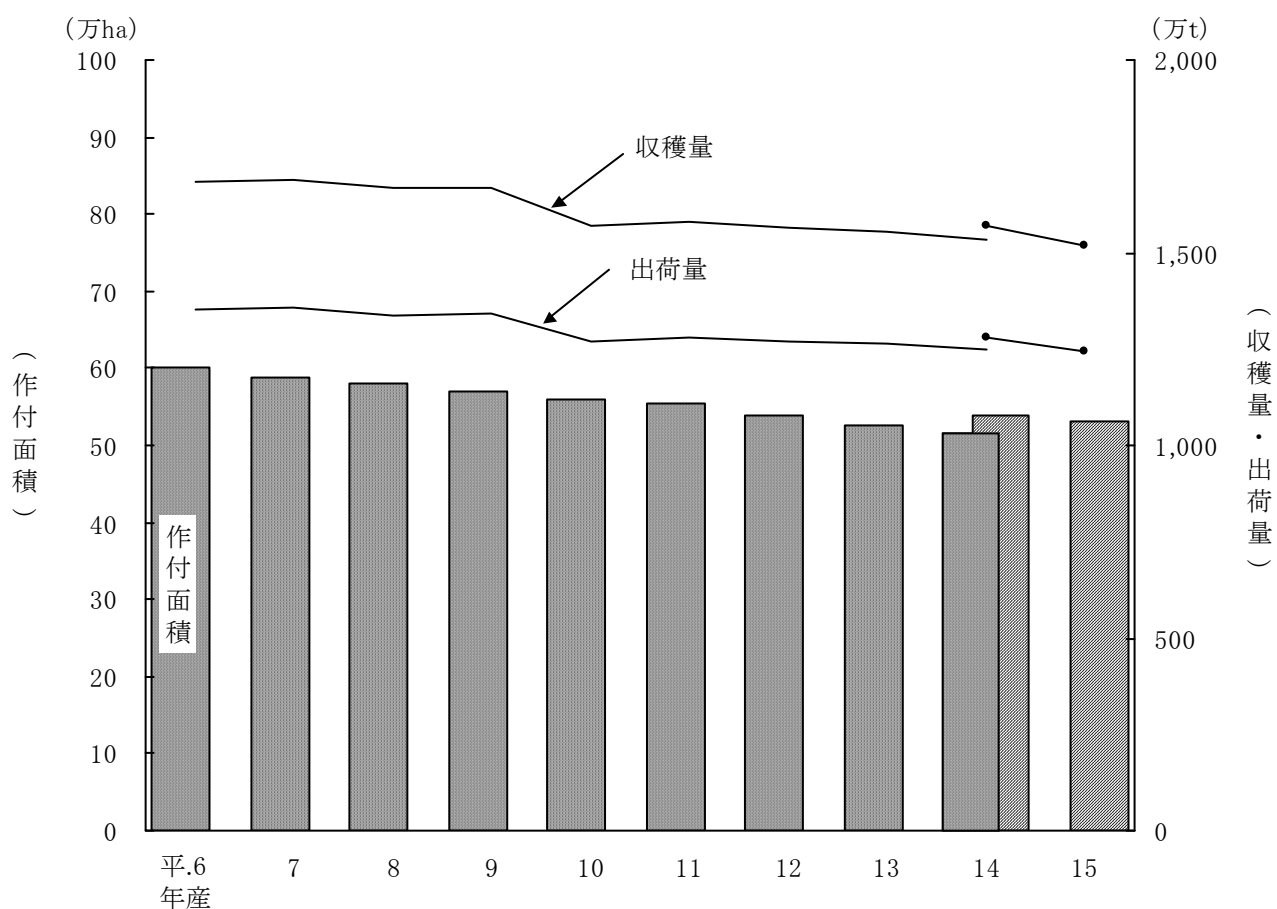


1 要 旨

平成15年産の野菜（39品目）の作付面積は52万8,200ha、収穫量は1,516万9,000 t、出荷量は1,241万9,000 tであった。

図1 野菜の作付面積、収穫量及び出荷量




注) 平成14年産から葉茎菜類8品目（こまつな、ちんげんさい、ふき、みつば、アスパラガス、しゅんぎく、にら及びにんにく）、果菜類（そらまめ）、香辛野菜（しょうが）を新たに追加し、39品目となったため、図中、平成14年産については29品目で過去8年間と同様に表し、平成14年産以降、39品目計の作付面積を「」、収穫量及び出荷量を「・」で表した。

表1 平成15年産野菜の作付面積、収穫量及び出荷量

単位 { 作付面積 : ha
 収穫量・出荷量 : t
 対 比 : %

品 目	作付面積	10a当たり 収	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a当たり 収	収穫量	出荷量	
計	528 200	-	15 169 000	12 419 000	98	-	97	97	-
根 菜 類	195 600	-	6 147 000	4 902 000	97	-	97	98	-
だいこん	41 500	4 230	1 752 000	1 334 000	97	101	98	98	103
かぶ	6 120	2 930	179 100	140 600	99	98	98	97	101
にんじん	20 300	3 250	658 900	576 400	99	103	102	103	106
ごぼう	9 760	1 750	171 000	139 300	101	102	103	104	98
れんこん	4 380	1 380	60 200	48 300	98	85	83	85	90
じゃがいも	88 300	3 330	2 939 000	2 401 000	96	100	96	96	106
さいたまも	16 400	1 280	209 400	124 800	96	104	100	101	104
やまのいも	8 870	2 000	177 300	137 200	101	97	98	95	96
葉 茎 菜 類	181 400	-	5 357 000	4 493 000	98	-	97	98	-
はくさい	20 700	4 670	964 500	727 500	96	99	96	95	101
こまつな	3 870	1 730	67 000	57 000	101	98	99	99	...
キャベツ	34 400	4 010	1 376 000	1 179 000	98	101	99	98	101
ちんげんさい	2 060	2 200	45 300	39 700	100	100	99	99	...
ほうれんそう	24 300	1 280	311 800	251 000	100	100	100	101	100
ふき	662	2 640	17 500	15 800	97	95	93	93	...
みつば	1 230	1 520	18 600	17 600	96	102	98	99	...
しゅんぎく	2 430	1 700	41 300	34 200	97	99	96	96	...
セルリー	709	5 110	36 200	34 100	99	99	97	97	97
アスパラガス	6 380	440	28 100	24 400	100	99	99	99	...
カリフラワー	1 600	1 840	29 400	23 200	97	100	97	96	99
ブロッコリー	10 200	1 050	107 500	91 300	111	103	114	114	101
レタ	22 000	2 490	548 600	508 000	100	98	98	98	100
ねぎ	23 600	2 180	514 600	396 700	99	100	99	99	101
にら	2 010	3 100	62 100	56 600	97	96	93	94	...
たまねぎ	23 500	4 990	1 172 000	1 025 000	93	99	92	98	105
にんにく	1 740	960	16 700	11 400	88	94	83	81	...
果 菜 類	115 600	-	2 676 000	2 159 000	100	-	96	96	-
きゅうり	14 100	4 850	684 100	572 200	98	96	94	93	99
かぼち	16 800	1 390	233 500	172 100	105	101	106	108	97
なす	12 000	3 290	395 800	292 700	97	94	92	92	96
トマト	13 200	5 750	759 900	669 000	99	98	97	97	100
ピーマン	3 760	4 030	151 500	128 800	97	97	94	94	100
スイートコーン	27 700	967	267 600	203 800	98	98	96	97	101
さやいんげん	7 950	717	57 000	35 400	98	98	97	99	97
さやえんどう	4 790	604	28 900	18 400	97	90	87	86	93
そらまめ	2 480	827	20 500	16 300	98	98	96	98	...
えだまめ	12 800	600	76 800	49 900	104	98	102	103	96
香 辛 野 菜									
しょうが	1 450	2 150	31 200	22 600	99	98	97	96	...
果 実 的 野 菜	34 100	-	958 900	842 800	95	-	94	93	-
いちご	7 240	2 800	202 900	183 200	98	98	96	96	105
メロン	11 900	2 260	268 600	243 900	93	100	94	94	100
すいか	15 000	3 250	487 300	415 700	95	98	92	92	97

2 指定野菜の品目別の概要

(1) だいこん

ア 作付面積

作付面積は4万1,500haで、前年産に比べて1,000ha（3%）減少した。これは、秋冬だいこんで他の野菜への転換等があったことによる。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,230kgで、前年産を1%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は175万2,000tで、前年産に比べて2万8,000t（2%）減少した。

出荷量は133万4,000tで、前年産に比べて2万7,000t（2%）減少した。

エ 季節区分別の概況

- (ア) 春だいこんの作付面積は5,270haで、前年産に比べて80ha（1%）減少した。10a 当たり収量は4,730kgで前年産を2%下回った。これは、千葉県で作柄の良かった前年産に比べて肥大が緩慢であったこと等による。この結果、収穫量は24万9,200tで、前年産に比べて8,200t（3%）減少し、出荷量は21万8,600tで、前年産に比べて6,400t（3%）減少した。
- (イ) 夏だいこんの作付面積は8,530haで、前年産に比べて180ha（2%）減少した。これは、福島県、青森県等で労働力不足により他の野菜への転換、規模縮小等があったためである。10a 当たり収量は3,460kgで前年産を2%上回った。これは、北海道で生育期間中、冷涼な気象経過によって生育が順調で肥大も促進され、病虫害の発生も少なかったことによる。この結果、収穫量は29万5,400t、出荷量は26万1,600tで、共に前年産並みであった。
- (ウ) 秋冬だいこんの作付面積は2万7,700haで、前年産に比べて800ha（3%）減少した。これは、労働力不足により、北海道でブロッコリー等の他の野菜への転換、宮崎県等で規模縮小等があったためである。10a 当たり収量は4,370kgで、前年産を1%上回った。この結果、収穫量は120万8,000tで、前年産に比べて1万9,000t（2%）減少し、出荷量は85万4,000tで、前年産に比べて2万800t（2%）減少した。

図2 だいこんの作付面積及び収穫量の推移

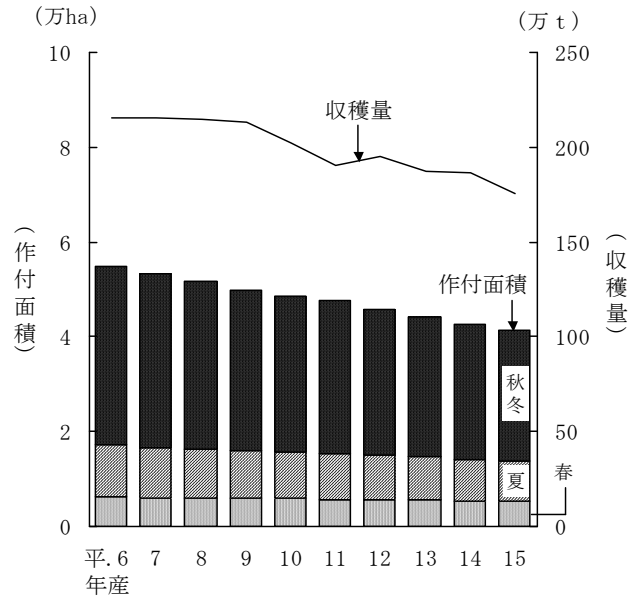


表2 平成15年産だいこんの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a 当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比				(参考) 平均収量対比
					単位				
					作付面積	10a 当たり収	収穫量	出荷量	
だいこん	41 500	4 230	1 752 000	1 334 000	97	101	98	98	103
春	5 270	4 730	249 200	218 600	99	98	97	97	103
夏	8 530	3 460	295 400	261 600	98	102	100	100	108
秋冬	27 700	4 370	1 208 000	854 000	97	101	98	98	102

(2) にんじん

ア 作付面積

作付面積は2万300haで、前年産に比べて200ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は3,250kgで、前年産を3%上回った。これは、秋にんじん及び冬にんじんにおいて、前年産を上回ったことによる。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は65万8,900tで、前年産に比べて1万5,200t（2%）増加した。

出荷量は57万6,400tで、前年産に比べて1万4,700t（3%）増加した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春夏にんじんの作付面積は4,380haで、前年産に比べて160ha（4%）減少した。

これは、前年産市場価格の低下により規模縮小等があったためである。10a 当たり収量は3,560kgで、前年産を2%下回った。これは、徳島県で作柄の良かった前年産に比べて根部の肥大が抑制されたこと等による。この結果、収穫量は15万5,700tで、前年産に比べて9,200t（6%）減少し、出荷量は13万9,500tで、前年産に比べて7,900t（5%）減少した。

(イ) 秋にんじんの作付面積は7,110haで、前年産に比べて210ha（3%）増加した。これは、北海道でばれいしょ等の他の野菜からの転換があったためである。10a 当たり収量は3,010kgで、前年産を7%上回った。これは、北海道で生育期間中、冷涼な気象経過によって生育が順調で肥大も促進され、病虫害の発生も少なかったことによる。この結果、収穫量は21万3,600tで、前年産に比べて1万9,500t（10%）増加し、出荷量は19万600tで、前年産に比べて1万8,400t（11%）増加した。

(ウ) 冬にんじんの作付面積は8,800haで、前年産に比べて250ha（3%）減少した。これは、宮崎県で契約栽培が減少したことや、茨城県等で労働力不足による規模縮小等があったためである。10a 当たり収量は3,290kgで前年産を5%上回った。これは、千葉県で8月下旬以降おおむね天候に恵まれ、肥大が促進されたこと等による。この結果、収穫量は28万9,500tで、前年産に比べて4,800t（2%）増加し、出荷量は24万6,300tで、前年産に比べて4,200t（2%）増加した。

図3 にんじんの作付面積及び収穫量の推移

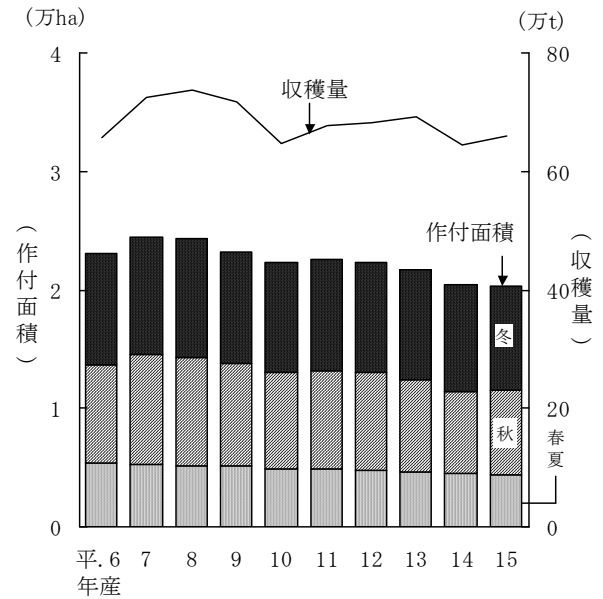


表3 平成15年産にんじんの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a 当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a 当たり収	収穫量	出荷量	
					対	対	対	対	
にんじん	20 300	3 250	658 900	576 400	99	103	102	103	106
春夏	4 380	3 560	155 700	139 500	96	98	94	95	104
秋	7 110	3 010	213 600	190 600	103	107	110	111	108
冬	8 800	3 290	289 500	246 300	97	105	102	102	106

単位 { 作付面積 : ha
 収穫量・出荷量 : t
 対比 : %

(3) ばれいしょ (じゃがいも)

ア 作付面積

作付面積は8万8,300haで、前年産に比べて3,800ha (4%) 減少した。これは、春植えばれいしょにおける他作物への転換、秋植えばれいしょにおける規模縮小等があったことによる。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は3,330kgで、前年産並みであった。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は293万9,000tで、前年産に比べて13万5,000t (4%) 減少した。

出荷量は240万1,000tで、前年産に比べて9万7,000t (4%) 減少した。

エ 季節区分別の概況

- (ア) 春植えばれいしょの作付面積は8万5,300haで、前年産に比べて3,800ha (4%) 減少した。これは、北海道で、近年の市場価格の低迷により、豆類、てんさい等の他作物への転換等があったことによる。10a 当たり収量は3,390kgで前年産並みであった。この結果、収穫量は289万6,000tで、前年産に比べて12万2,000t (4%) 減少し、出荷量は237万4,000tで、前年産に比べて8万5,000t (3%) 減少した。
- (イ) 秋植えばれいしょの作付面積は3,000haで、前年産に比べて60ha (2%) 減少した。これは、長崎県等で労働力不足による規模縮小等があったためである。10a 当たり収量は1,430kgで、前年産を21%下回った。これは、長崎県で9月中旬以降の少雨により発芽不良が多かったことから着いも数が少なく、肥大も抑制されたこと等による。この結果、収穫量は4万3,000tで、前年産に比べて1万2,600t (23%) 減少し、出荷量は2万7,900tで、前年産に比べて1万500t (28%) 減少した。

図4 ばれいしょ (じゃがいも) の作付面積及び収穫量の推移

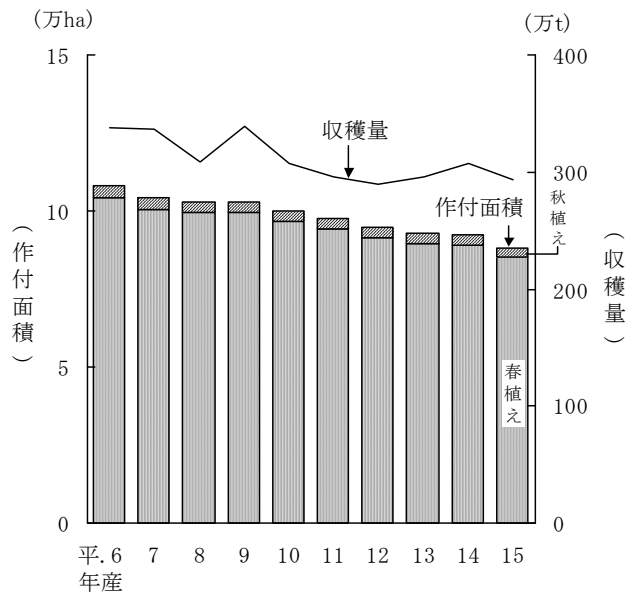


表4 平成15年産ばれいしょ(じゃがいも)の作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり 収	10a 当たり 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比				(参考) 平均収量 対 比
						作付面積	10a 当たり 収	収 穫 量	出 荷 量	
						対	対	対	対	
ばれいしょ (じゃがいも)	88 300	kg	3 330	2 939 000	2 401 000	96	100	96	96	106
春植え	85 300		3 390	2 896 000	2 374 000	96	100	96	97	106
秋植え	3 000		1 430	43 000	27 900	98	79	77	72	88

単 位 { 作 付 面 積 : ha
 収 穫 量 ・ 出 荷 量 : t
 対 比 : %

(4) さといも

ア 作付面積

作付面積は1万6,400haで、前年産に比べて700ha（4%）減少した。これは、秋冬さといもで規模縮小等があったことによる。

イ 10aあたり収量

10aあたり収量は1,280kgで、前年産を4%上回った。これは、秋冬さといもにおいて、前年産を上回ったことによる。

ウ 収穫量及び出荷量

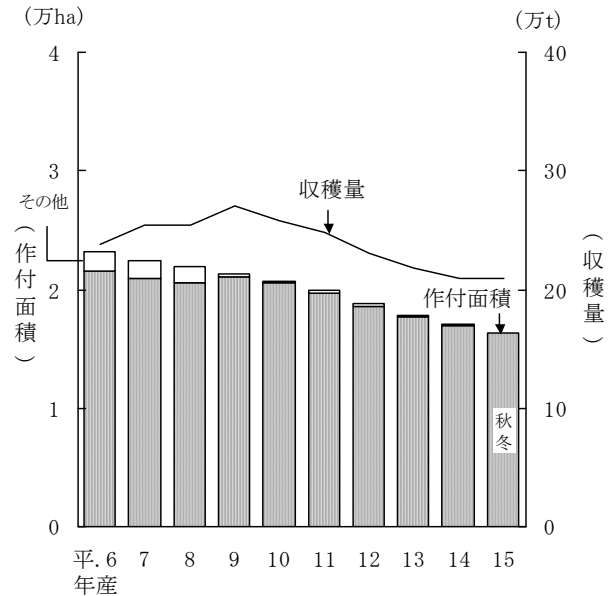
収穫量は20万9,400tで、前年産並みであった。

出荷量は12万4,800tで、前年産に比べて1,400t（1%）増加した。

エ 季節区分別の概況

秋冬さといもの作付面積は1万6,300haで、前年産に比べて700ha（4%）減少した。これは、千葉県等で近年の市場価格の低迷、労働力不足による規模縮小等があったためである。10aあたり収量は1,280kgで前年産を4%上回った。これは、宮崎県で9月中旬以降の少雨により肥大が抑制されたものの、埼玉県で8月下旬以降おおむね天候に恵まれ、肥大が促進されたこと等による。この結果、収穫量は20万9,000tで、前年産並み、出荷量は12万4,500tで、前年産に比べて1,600t（1%）増加した。

図5 さといもの作付面積及び収穫量の推移



注：平成9年産から野菜生産出荷安定法施行令の一部改正に伴い、主たる出荷期間を秋冬さといもは8月～3月を6月～3月、その他さといもは4月～7月を4月～5月に変更した。

表5 平成15年産さといもの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10aあたり収	収穫量	出荷量	前年産対比				(参考)平均収量対比
					作付面積	10aあたり収	収穫量	出荷量	
さといも	16 400	1 280	209 400	124 800	96	104	100	101	104
うち、秋冬	16 300	1 280	209 000	124 500	96	104	100	101	...

単位 { 作付面積：ha
収穫量・出荷量：t
対比：%

注) 秋冬さといもの「(参考)平均収量対比」については、野菜生産出荷安定法施行令の一部改正に伴い、平成9年産から主たる収穫・出荷期間の変更があったことから「…」とした。(以降の統計表についても同じ。)

(5) はくさい

ア 作付面積

作付面積は2万700haで、前年産に比べて700ha（4%）減少した。これは、秋冬はくさいで規模縮小等があったことによる。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,670kgで、前年産を1%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は96万4,500tで、前年産に比べて4万500t（4%）減少した。

出荷量は72万7,500tで、前年産に比べて3万9,600t（5%）減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春はくさいの作付面積は2,090haで、前年産に比べて50ha（2%）減少した。これは、大分県等で契約栽培の増加により規模拡大等があったものの、茨城県等で労働力不足による規模縮小等があったためである。10a 当たり収量は5,800kgで、前年産並みであった。この結果、収穫量は12万1,500tで、前年産に比べて3,200t（3%）減少し、出荷量は10万8,600tで、前年産に比べて2,000t（2%）減少した。

(イ) 夏はくさいの作付面積は3,140haで、前年産に比べて60ha（2%）減少した。これは、長野県等でブロッコリー等の他の野菜への転換があったためである。10a 当たり収量は5,820kgで、前年産を2%下回った。これは、長野県で7月から8月中旬の降雨と日照不足により病害が発生したこと等による。この結果、収穫量は18万2,300tで、前年産に比べて7,900t（4%）減少し、出荷量は16万2,400tで、前年産に比べて8,200t（5%）減少した。

(ウ) 秋冬はくさいの作付面積は1万5,400haで、前年産に比べて700ha（4%）減少した。これは、愛知県等で労働力不足による規模縮小等があったためである。10a 当たり収量は4,280kgで、前年産並みであった。この結果、収穫量は66万600tで、前年産に比べて2万9,400t（4%）減少し、出荷量は45万6,500tで、前年産に比べて2万9,400t（6%）減少した。

図6 はくさいの作付面積及び収穫量の推移

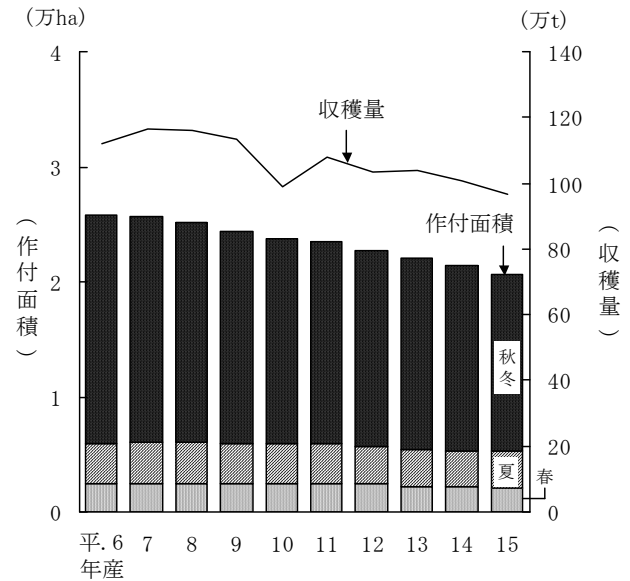


表6 平成15年産はくさいの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
はくさい	20 700	4 670	964 500	727 500	96	99	96	95	101
春	2 090	5 800	121 500	108 600	98	100	97	98	104
夏	3 140	5 820	182 300	162 400	98	98	96	95	100
秋 冬	15 400	4 280	660 600	456 500	96	100	96	94	101

単 位 { 作 付 面 積 : ha
 収 穫 量 ・ 出 荷 量 : t
 対 比 : %

(6) キャベツ

ア 作付面積

作付面積は3万4,400haで、前年産に比べて500ha（2%）減少した。これは、夏秋キャベツにおける他作物への転換等があったことによる。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,010kgで、前年産を1%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は137万6,000tで、前年産に比べて1万6,000t（1%）減少した。

出荷量は117万9,000tで、前年産に比べて1万8,000t（2%）減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春キャベツの作付面積は8,900haで、前

年産に比べて150ha（2%）減少した。これは、愛知県等でねぎ等の他の野菜からの転換等によって増加したものの、兵庫県等において労働力不足により規模縮小等があったためである。10a当たり収量は3,950kgで、前年産を2%下回った。これは、千葉県で作柄の良かった前年産に比べて肥大が緩慢であったこと等による。この結果、収穫量は35万1,200tで、前年産に比べて1万4,100t（4%）減少し、出荷量は29万9,200tで、前年産に比べて9,800t（3%）減少した。

(イ) 夏秋キャベツの作付面積は1万1,100haで、前年産に比べて400ha（3%）減少した。これは、

群馬県でだいこん等の他の野菜からの転換により増加したものの、北海道等で小豆等の他作物等への転換により減少したためである。10a当たり収量は4,040kgで、前年産並みであった。この結果、収穫量は45万600tで、前年産に比べて1万2,200t（3%）減少し、出荷量は39万2,400tで、前年産に比べて9,200t（2%）減少した。

(ウ) 冬キャベツの作付面積は1万4,300haで、前年産に比べて100ha（1%）減少した。10a当

たり収量は4,010kgで前年産を3%上回った。これは、作柄の悪かった前年産に比べておおむね天候に恵まれ、結球・肥大が促進されたためである。この結果、収穫量は57万4,400tで、前年産に比べて1万400t（2%）増加し、出荷量は48万7,000tで前年産並みであった。

図7 キャベツの作付面積及び収穫量の推移

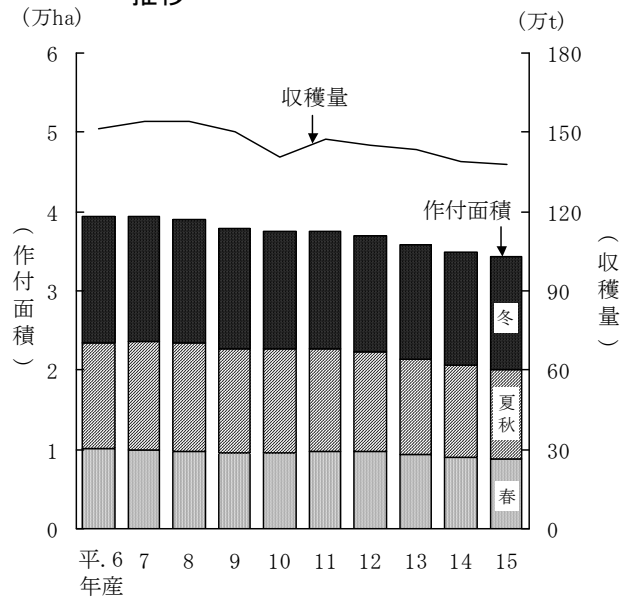


表7 平成15年産キャベツの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	10a当たり量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比				(参考) 平均収量対比
						作付面積	10a当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
キャベツ	34 400	4 010	kg	1 376 000	1 179 000	98	101	99	98	101
春	8 900	3 950		351 200	299 200	98	98	96	97	100
夏 秋	11 100	4 040		450 600	392 400	97	100	97	98	104
冬	14 300	4 010		574 400	487 000	99	103	102	100	100

単 位 { 作 付 面 積 : ha
 収 穫 量 ・ 出 荷 量 : t
 対 比 : %

(7) ほうれんそう

ア 作付面積

作付面積は2万4,300haで、前年産並みであった。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,280kgで、前年産並みであった。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は31万1,800 t で、前年産並みであった。

出荷量は25万1,000 t で、前年産に比べて1,400 t (1%) 増加した。

図8 ほうれんそうの作付面積及び収穫量の推移

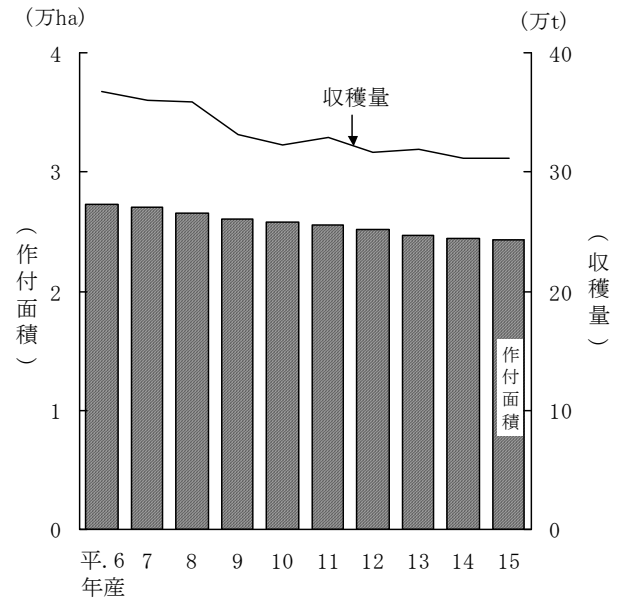


表8 平成15年産ほうれんそうの作付面積、収穫量及び出荷量

単位 { 作付面積 : ha
 収穫量・出荷量 : t
 対 比 : %

品 目	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
ほうれんそう	24 300	1 280	311 800	251 000	100	100	100	101	100

(8) レタス

ア 作付面積

作付面積は2万2,000haで、前年産並みであった。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は2,490kgで、前年産を2%下回った。これは、夏秋レタスで病害が発生したこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は54万8,600tで、前年産に比べて1万3,000t(2%)減少した。

出荷量は50万8,000tで、前年産に比べて1万1,200t(2%)減少した。

エ 季節区分別の概況

- (ア) 春レタスの作付面積は4,500haで、前年産に比べて40ha(1%)増加した。10a 当たり収量は2,740kgで前年産を2%下回った。これは、茨城県で作柄の良かった前年産に比べて生育・肥大が緩慢となったためである。この結果、収穫量は12万3,300tで、前年産に比べて1,300t(1%)減少し、出荷量は11万2,900tで、前年産並みであった。
- (イ) 夏秋レタスの作付面積は9,050haで、前年産並みであった。10a 当たり収量は2,590kgで、前年産を4%下回った。これは、長野県で7月から8月中旬の降雨と日照不足により病害が発生したこと等による。この結果、収穫量は23万4,100tで、前年産に比べて9,300t(4%)減少し、出荷量は22万600tで、前年産に比べて8,600t(4%)減少した。
- (ウ) 冬レタスの作付面積は8,500haで、前年産に比べて60ha(1%)減少した。10a 当たり収量は2,250kgで、前年産を1%下回った。この結果、収穫量は19万1,200tで、前年産に比べて2,500t(1%)減少し、出荷量は17万4,500tで、前年産に比べて3,100t(2%)減少した。

図9 レタスの作付面積及び収穫量の推移

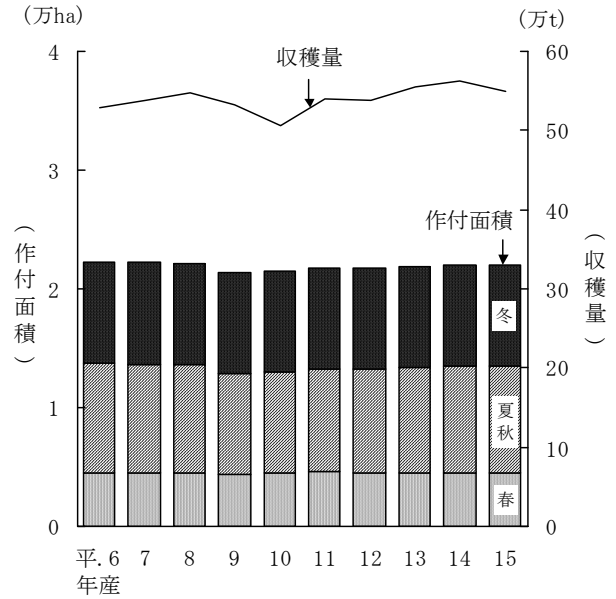


表9 平成15年産レタスの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
					対	対	対	対	
レ タ ス	22 000	2 490	548 600	508 000	100	98	98	98	100
春	4 500	2 740	123 300	112 900	101	98	99	100	104
夏 秋	9 050	2 590	234 100	220 600	100	96	96	96	98
冬	8 500	2 250	191 200	174 500	99	99	99	98	101

単 位 { 作 付 面 積 : ha
 収 穫 量 ・ 出 荷 量 : t
 対 比 : %

(9) ねぎ

ア 作付面積

作付面積は2万3,600haで、前年産に比べて300ha（1%）減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,180kgで、前年産並みであった。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は51万4,600tで、前年産に比べて4,100t（1%）減少した。

出荷量は39万6,700tで、前年産に比べて5,100t（1%）減少した。

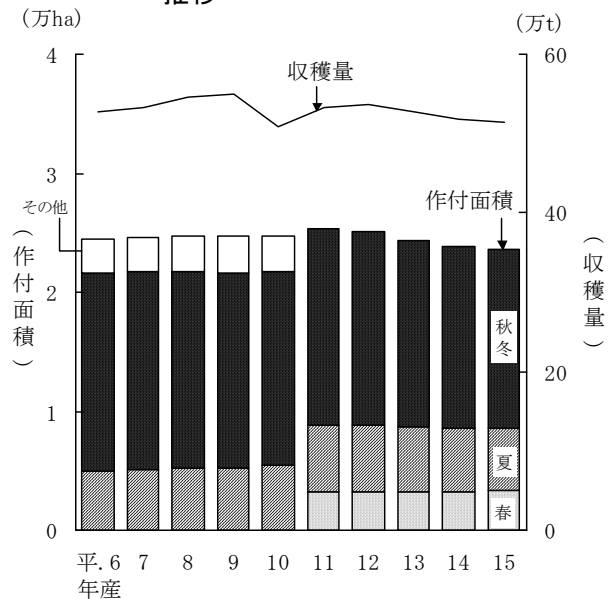
エ 季節区分別の概況

(ア) 春ねぎの作付面積は3,310haで、前年産に比べて30ha（1%）増加した。10a当たり収量は2,520kgで、前年産を1%下回った。この結果、収穫量は8万3,500t、出荷量は7万2,300tで、共に前年産並みであった。

(イ) 夏ねぎの作付面積は5,290haで、前年産並みであった。10a当たり収量は2,010kgで、前年産を1%下回った。この結果、収穫量は10万6,200tで、前年産に比べて1,200t（1%）減少し、出荷量は9万400tで、前年産に比べて1,500t（2%）減少した。

(ウ) 秋冬ねぎの作付面積は1万5,000haで、前年産に比べて300ha（2%）減少した。これは、埼玉県で労働力不足による規模縮小や春ねぎへの移行等があったためである。10a当たり収量は2,160kgで、前年産を1%上回った。この結果、収穫量は32万4,900tで、前年産に比べて2,600t（1%）減少し、出荷量は23万4,100tで、前年産に比べて3,200t（1%）減少した。

図10 ねぎの作付面積及び収穫量の推移



注：春ねぎは、野菜生産出荷安定法施行令（昭和41年政令第224号）の一部改正により平成11年産から新たに調査対象となった。

表10 平成15年産ねぎの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	10a当たり量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比				(参考) 平均収量 対 比
						単 位				
						作付面積	10a当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
ねぎ	23 600	2 180	514 600	396 700	99	100	99	99	101	
春	3 310	2 520	83 500	72 300	101	99	100	100	...	
夏	5 290	2 010	106 200	90 400	100	99	99	98	102	
秋 冬	15 000	2 160	324 900	234 100	98	101	99	99	101	

注) 春ねぎは、野菜生産出荷安定法施行令の一部改正に伴い、平成11年産から主たる収穫・出荷期間の変更があったことから「…」とした。

(10) たまねぎ

ア 作付面積

作付面積は2万3,500haで、前年産に比べて1,900ha（7%）減少した。これは、近年の市場価格の低迷により、北海道でてんさい等の他作物への転換、佐賀及び兵庫県で他野菜への転換、規模縮小があったためである。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,990kgで、前年産を1%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は117万2,000tで、前年産に比べて10万2,000t（8%）減少した。
 出荷量は102万5,000tで、前年産に比べて1万7,000t（2%）減少した。

図11 たまねぎの作付面積及び収穫量の推移

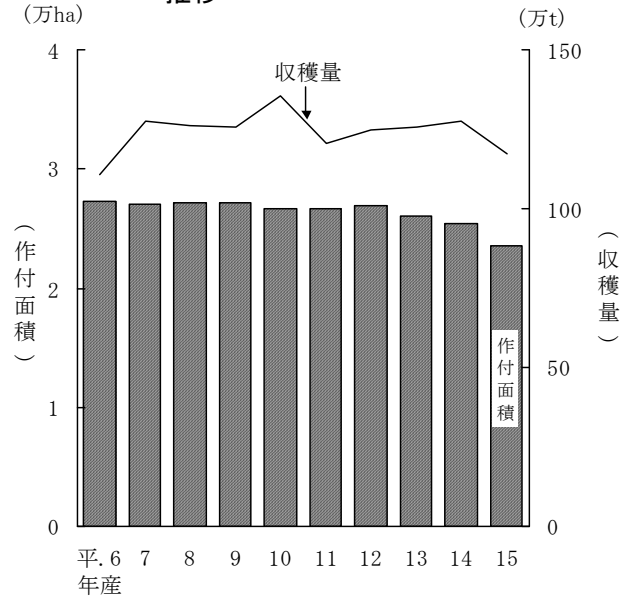


表11 平成15年産たまねぎの作付面積、収穫量及び出荷量

単位 { 作付面積 : ha
 収穫量・出荷量 : t
 対 比 : %

品 目	作付面積	10a 当たり 収 量	10a 当たり 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比				(参考) 平均収量 対 比
						作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
たまねぎ	23 500	kg	4 990	1 172 000	1 025 000	93	99	92	98	105

(11) きゅうり

ア 作付面積

作付面積は1万4,100haで、前年産に比べて300ha(2%)減少した。これは、労働力不足により規模縮小等があったためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,850kgで、前年産を4%下回った。これは、年間を通して前年産を下回ったこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は68万4,100tで、前年産に比べて4万5,100t(6%)減少した。

出荷量は57万2,200tで、前年産に比べて4万200t(7%)減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 冬春きゅうりの作付面積は3,640haで、前年産に比べて70ha(2%)減少した。これは、労働力不足による規模縮小等があったためである。10a当たり収量は9,690kgで、前年産を3%下回った。これは、宮崎県で作柄の良かった前年産に比べて着果数が少なかったこと等による。この結果、収穫量は35万2,900tで、前年産に比べて1万8,200t(5%)減少し、出荷量は32万6,000tで、前年産に比べて1万9,100t(6%)減少した。

(イ) 夏秋きゅうりの作付面積は1万500haで、前年産に比べて200ha(2%)減少した。これは、労働力不足による規模縮小等があったためである。10a当たり収量は3,170kgで、前年産を5%下回った。これは、6月下旬からの低温・日照不足により、着果数が少なく、果実の肥大が抑制されたこと等による。この結果、収穫量は33万1,100tで、前年産に比べて2万7,000(8%)減少し、出荷量は24万6,200tで、前年産に比べて2万1,100t(8%)減少した。

図12 きゅうりの作付面積及び収穫量の推移

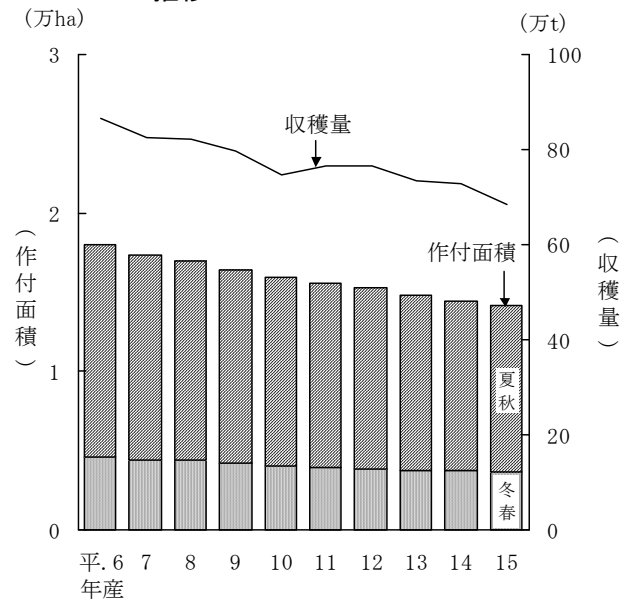


表12 平成15年産きゅうりの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比				(参考)平均収量対比
					単位 { 作付面積: ha, 収穫量・出荷量: t, 対比: %				
					作付面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	
きゅうり	14 100	4 850	684 100	572 200	98	96	94	93	99
冬春	3 640	9 690	352 900	326 000	98	97	95	94	100
夏秋	10 500	3 170	331 100	246 200	98	95	92	92	96

(12) なす

ア 作付面積

作付面積は1万2,000haで、前年産に比べて400ha（3%）減少した。これは、労働力不足による規模縮小等があったためである。

イ 10aあたり収量

10aあたり収量は3,290kgで、前年産を6%下回った。これは、年間を通して前年産を下回ったこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は39万5,800tで、前年産に比べて3万6,500t（8%）減少した。

出荷量は29万2,700tで、前年産に比べて2万4,500t（8%）減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春なすの作付面積は1,470haで、前年産に比べて10ha（1%）減少した。10aあたり収量は9,930kgで、前年産を4%下回った。これは、高知県で作柄の良かった前年産に比べて着果数が少なく、果実の肥大も緩慢となったこと等による。この結果、収穫量は14万5,900tで、前年産に比べて8,000t（5%）減少し、出荷量は13万7,300tで、前年産に比べて7,400t（5%）減少した。

(イ) 夏秋なすの作付面積は1万600haで、前年産に比べて300ha（3%）減少した。これは、労働力不足による規模縮小等があったためである。10aあたり収量は2,370kgで、前年産を7%下回った。これは、6月下旬からの低温・日照不足により、着果数が少なく、果実の肥大も抑制されたこと等による。この結果、収穫量は24万9,900tで、前年産に比べて2万8,500（10%）減少し、出荷量は15万5,500tで、前年産に比べて1万7,000t（10%）減少した。

図13 なすの作付面積及び収穫量の推移

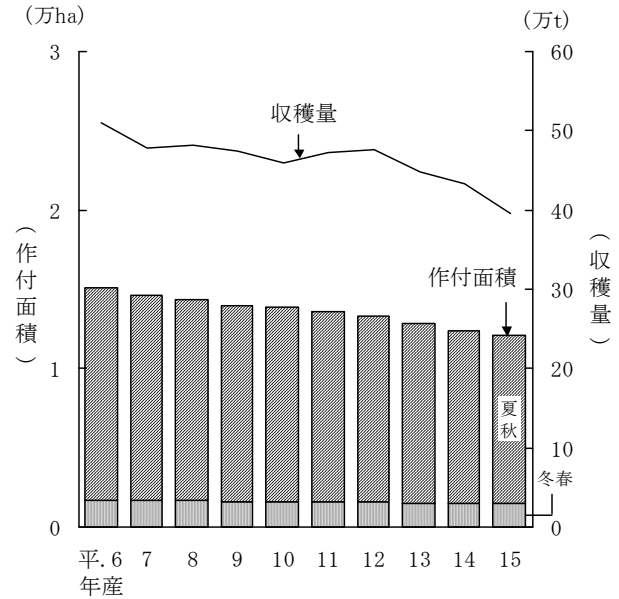


表13 平成15年産なすの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10aあたり収	収穫量	出荷量	前年産対比				(参考) 平均収量対比
					単位				
					作付面積	10aあたり収	収穫量	出荷量	
なす	12 000	3 290	395 800	292 700	97	94	92	92	96
冬春	1 470	9 930	145 900	137 300	99	96	95	95	97
夏秋	10 600	2 370	249 900	155 500	97	93	90	90	93

(13) トマト

ア 作付面積

作付面積は1万3,200haで、前年産に比べて100ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は5,750kgで、前年産を2%下回った。これは、年間を通して都府県の主産地で前年産を下回ったこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は75万9,900tで、前年産に比べて2万5,000t（3%）減少した。

出荷量は66万9,000tで、前年産に比べて1万9,600t（3%）減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春トマトの作付面積は4,190haで、前年産に比べて20ha（1%）増加した。10a 当たり収量は9,160kgで、前年産を3%下回った。これは、熊本県で作柄の良かった前年産に比べて果実の肥大が抑制されたこと等による。この結果、収穫量は38万3,600tで、前年産に比べて1万1,800t（3%）減少し、出荷量は35万9,100tで、前年産に比べて1万1,700t（3%）減少した。

(イ) 夏秋トマトの作付面積は9,030haで、前年産に比べて140ha（2%）減少した。これは、岩手県等で労働力不足による規模縮小等があったためである。10a 当たり収量は4,170kgで、前年産を2%下回った。これは、北海道で前年産を上回ったものの、都府県の主産地で6月下旬からの低温・日照不足により、着果数が少なく、果実の肥大も抑制されたこと等による。この結果、収穫量は37万6,300tで、前年産に比べて1万3,100t（3%）減少し、出荷量は30万9,800tで、前年産に比べて7,900t（2%）減少した。

図14 トマトの作付面積及び収穫量の推移

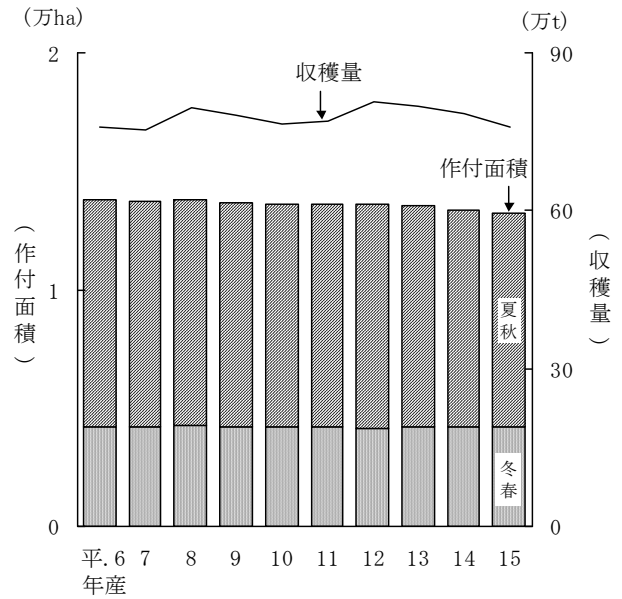


表14 平成15年産トマトの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a 当たり 収量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比				(参考) 平均収量 対 比
					単 位				
					作付面積	10a 当たり 収量	収 穫 量	出 荷 量	
ト マ ト	13 200	5 750	759 900	669 000	99	98	97	97	100
冬 春	4 190	9 160	383 600	359 100	101	97	97	97	100
夏 秋	9 030	4 170	376 300	309 800	98	98	97	98	97

(14) ピーマン

ア 作付面積

作付面積は3,760haで、前年産に比べて100ha（3%）減少した。これは、労働力不足による規模縮小等があったためである。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,030kgで、前年産を3%下回った。これは、年間を通して作柄の良かった前年産を下回ったこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は15万1,500tで、前年産に比べて9,500t（6%）減少した。

出荷量は12万8,800tで、前年産に比べて7,700t（6%）減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春ピーマンの作付面積は841haで、前年産に比べて47ha（5%）減少した。これは、宮崎県等で他野菜への転換があったためである。10a 当たり収量は9,170kgで、前年産を3%下回った。これは、宮崎県で作柄の良かった前年産に比べて着果数が少なかったこと等による。この結果、収穫量は7万7,100tで、前年産に比べて6,900t（8%）減少し、出荷量は7万2,800tで、前年産に比べて6,300t（8%）減少した。

(イ) 夏秋ピーマンの作付面積は2,920haで、前年産に比べて50ha（2%）減少した。これは、岩手県等で労働力不足による規模縮小等があったためである。10a 当たり収量は2,550kgで、前年産を2%下回った。これは、岩手県で6月下旬から8月の低温・日照不足により、着果数が少なく、果実の肥大も抑制されたこと等による。この結果、収穫量は7万4,400tで、前年産に比べて2,600t（3%）減少し、出荷量は5万6,000tで、前年産に比べて1,400t（3%）減少した。

図15 ピーマンの作付面積及び収穫量の推移

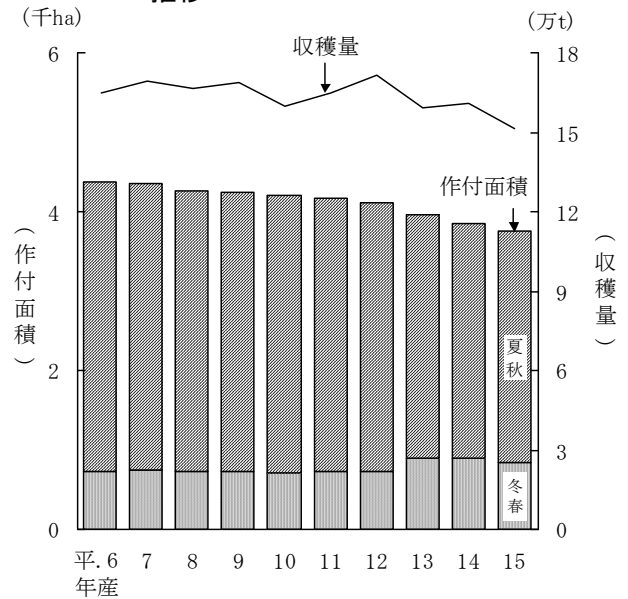


表15 平成15年産ピーマンの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比				(参考) 平均収量 対 比
					単 位 { 作 付 面 積 : ha 収 穫 量 ・ 出 荷 量 : t 対 比 : %				
					作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
ピーマン	3 760	4 030	151 500	128 800	97	97	94	94	100
冬 春	841	9 170	77 100	72 800	95	97	92	92	94
夏 秋	2 920	2 550	74 400	56 000	98	98	97	97	96